

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	アルバミンチ・ズラヤ地区 3 村の住民約 6,000 人の健康改善と衛生環境の向上。
(2) 事業内容	<p>中間報告対象期間：2012 年 8 月 1 日～2013 年 1 月 20 日</p> <p><u>水源から村落までの水供給システム 2 基の設置</u></p> <p>水供給システムとは</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水源保護ボックス（汚染より水を守る） ② 中間地点における貯水タンク（水圧、水量の安定） ③ 給水ポイント ④ 洗濯場 <p>をパイプラインでつなぐ構造となっている。</p> <p>水供給システムは Lasa 村（Bola 源泉）に設置後、Yella 及び Beko 村（Dor ja 源泉）での設置を行う予定だったが、プロジェクトの開始時期が天候、道路事情により遅れたため、全村同時に設置作業を開始した。両水源とも水源保護ボックスが完成しており、2013 年 2 月中旬には貯水タンクが完成予定である。当初、水源保護ボックス 2 つ、貯水タンク 2 つの設置を計画していたが、天候の影響で実施時の水量が調査時より著しく少なくなっていた。そこで、乾季にも十分な水量を確保するため、それぞれの水源保護ボックス、貯水タンクの大きさを一回り小さくし、数を増やして設置することにより、より多くの水量が確保できるようになった。</p> <p><u>保健教育</u></p> <p>対象地区 1100 世帯の約半数の世帯を保健教育オフィサー（看護師）とアシスタントが各家庭を訪問し衛生管理教育を行っている。また保健委員会が発足し、事業終了後も委員が中心となり継続的に保健教育が実施できるようオフィサーからトレーニングを受けている。</p>
(3) 達成された効果	<p><u>水源から村落までの水供給システム 2 基の設置</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水源保護ボックス (4 基) 完成 ② 貯水タンク (2 基) 完成 ③ 水供給委員会 (男 7 人、女 5 人) 及びメンテナンスチーム (6 人) 発足 <p><u>保健教育</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保健委員会発足 (11 人) ② 衛生教育の欠如から起こる体調不良で診療所に行く回数が減少しているとの報告あり <p>また、保健衛生教育の一環としてトイレの設置・使用を推奨しており、事業開始時はトイレを所有する世帯は無かったが、現在までに 70 世帯以上で設置された。</p>

<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>水源保護ボックス周辺に地盤強化・保湿の為の植林を4月から開始予定。水供給システムの設置を2013年7月迄に終了。1月から水管理委員会等が本格的に始動。システム設置過程で実地訓練を行うとともに管理運営及び衛生管理についてのトレーニングを実施する。また、引き続き家庭を戸別訪問し保健教育を進めるとともに、保健委員へのトレーニングを継続する。</p>
-------------------	---